

小学校第4学年 社会科指導案

奈良市立平城小学校

新宮 済

1. 単元名 吉野川流域に美しい水を提供する村 川上村

2. 単元目標

- ・川上村の人の産業に興味を持ち、そこでの人の営みを通して、川上村の特色を調べようとする。

(関心・意欲・態度)

- ・川上村の地形、気候、産業、水を通じた地域とのつながりについて考えることができる。

(思考・判断・表現)

- ・目的に応じて川上村の林業に関する統計やグラフ、現地の写真などを活用することができる。

(技能)

- ・自然環境と産業のかかわりや、吉野川(紀の川)の水を通じた他地域とのつながりを理解する。

(知識理解)

3. 単元について

教材について

本単元では、「県内の人々の生活や産業と他地域とのかかわり」について目的を持って調べる学習を通して、自分たちの住んでいる県の特徴をより広い視野から考える力を育てることにしている。ここでは、源流から海までの第1産業(林業・農業・漁業)をつなぐ川と共に生きる奈良県吉野郡川上村を取りあげる。川上村は、吉野林業の中心地で、最高級の建築材として知られる吉野杉の主産地である。これだけでなく川上村には吉野川(紀の川)の源流となる「水源地の森」がある。これは川上村の杉林の奥地にある500年以上も手つかずの原生林約740ha(東京ドーム157個分)のことである。そのなかに位置する大台ヶ原に降った雨は「水源地の森」に蓄えられ、吉野川になって流れ出し、多くの支流を集めながら、紀の川となって和歌山の海へと注いでいる。きれいな川の水により、中流域では農業用水として安定的に大和平野に供給され米づくりや農業の発展につながっている。また下流域では透明な海となり高級品とされる和歌浦湾のしらすを代表する海の幸につながる。川上村は、この水をつながりをつくる源である貴重な森を守ろうと約10億円を投じて「水源地の森」を購入した。その思いは「川上宣言」なかで“山を守り、樹を大切にしながら、下流域の人々へきれいな水を送る”と唱った。源流で暮らすものとして、下流にはいつもきれいな水を流すことを決めたのである。こうした思いを村民だけでなく、源流、上流、中流、下流に暮らす人たちが、交流することを通して、かけがえのない水をつなぐことの大切さについてわかる活動を、川上村の自然・科学博物館「森と水の源流館」の尾上忠大氏中心になって行っている。また、近年では外材輸入による木材価値の低下や林業家の高齢化等により川上村の主産業である林業は不振に陥っている。こうした問題から、きれいな川を持続させていく取り組みも行われている。本単元では、川上村の割り箸を切り口に学習を進めていく。川上村の割り箸は市販の割り箸とは大きく2つ異なっ

いる。1つは原料である。奈良県産吉野杉の間伐材の端材を有効活用してできている。2つは箸袋である。市販の箸袋とは違って「このお箸を使うことは、森を守ることにつながります。」「吉野の人工林の間伐材をあなたの身の周りで利用してください。」「源流の森とあなたはつながっています。」など川上村の人の思いを宣伝している。発展的な学習として、この箸袋に書かれた宣伝の意味を考えさせることで森林環境と水、資源のかかわりを考えさせたい。児童にとっては、いつもの割り箸と違う不思議な箸であるが、先に述べた川上村の特色が一本の箸に詰まっているだけでなく、人との出会いがあり、他地域との深いつながりにも気づける教材であると考えられる。

児童について

事前に川上村についてアンケートを取ると、奈良県南部に行ったことがある児童は5人で、川上村へ行ったことがある児童は1人だけであった。川上村の産業を知っているという児童はいなかった。次に森の役割を知っている児童は4人いて、「洪水を防ぐ」「酸素をつくる」「空気をきれいにする」「木材をつくる」と答えた。川上村が行っている取り組みは誰も知らなかった。以上のことから児童にとって川上村の森と水の関係、川上村が他地域に豊かな恵みをもたらしていることは、まったく知られていないことがわかる。また行ってみたい市町村にも川上村が出て来なかったことから、自分事としてとらえていないことも考えられる。

指導について

本単元では割り箸を切り口に問題解決的な学習を通して、人の営みから川上村の特色について考えさせていく。単元は「みつめる」「しらべる」「ふかめる」「ひろげる」の四段階を設け、中心課題に対するふりかえりを行う。学習の中で単元の構造図の中心概念にせまるために3つの話し合い活動を設ける。

1つは、「森と水の源流館」の尾上氏をゲストティーチャーに迎えた授業である。ここではグループで調べてきた割り箸の宣伝の意味を発表し合いクラスで1つの答えとしてねりあげて、尾上氏に評価してもらう。その学習を通じて中心課題についてのふりかえりとして自分の考えを書く。この後に尾上氏から、川上村の割り箸の宣伝が意味することについて授業をしてもらう。川上村の森が美しい水をつくることと、川上村の美しい水を守るための取り組みと、上流・中流・下流の林業、農業、漁業の第一産業とのかかわりを教わる。川上村は吉野川(紀の川)に美しい水を流すだけでなく、源流、上流、中流、下流に暮らす人々の様々な「思い」をつなげる村であることを、尾上氏から直接聞くことで、調べ学習で考えてきた川上村についての特色の理解をより深いものにしていきたい。

2つは「川上村の魅力って何だろう」というテーマで、『山の自然環境・林業・川・問題に負けない林業家・割り箸』のキーワードから選びこれまで学習した様々なことを根拠に話し合う。魅力を探るうえで奈良市と比較しながら考えさせたい。話し合いを通して、知識の構造図の中心概念である「林業に適した場所にある川上村には、吉野川(紀の川)の上流・中流・下流の人々に恵みをもたらす源流と川の命を育てる山とがあり、そこに伴う様々な諸問題に地域の人々が流域でつながり工夫しながら」というところまでを児童の言葉で確認していきたい。最後に川上村に住む人の意見として尾上氏に行ったインタビューを動画で確認することで中心概念の最後の部分である「持続可能な水源地の村づくりを行っている」という児童の川上村に対する見方・考え方にまで深めたい。

3つは、川上村の箸(水源地の村づくりの活動)との今後の関わり方について話し合いを行う。児童達は、川上村の割り箸に出会い、疑問を持ち、ゲストティーチャー尾上氏から割り箸の意義を学ぶ。尾上氏から「割り箸を使ってください。」と語られたことで、川上村の割り箸について新たな見方・考え方

を持つことができるようになる。この児童の考えを揺さぶるために、東京都八王子市の「マイはし運動」の取り組みについてホームページから紹介する。川上村の割り箸と相対する考え方に会わせただけで、様々な立場の中から奈良県民の立場として割り箸をどう使うべきか話し合う活動を行う。意見から奈良県に生きるものとして川上村の持続可能な社会の実現に向けた取り組みに参画していける態度を養いたい。

4. 評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	観察・資料活用 of 技能・表現	社会的事象についての知識・理解
・川上村の地理的位置、地形や産業、国内の他地域や外国とのかかわりなどに関心を持ち、意欲的に調べる。	・川上村の様子から学習問題を見い出して追究し、県の特徴について思考・判断したことを言語などで適切に表現している。	・地図や資料を活用したり、インターネットを活用したりして、県の様子について必要な情報を集め読み取っている。	・県の特徴ある地域の人の生活の様子を理解している。 ・県内の人々の生活や産業と国内の他地域を理解している。

5. 単元計画 (全8時間)

	学習活動	指導上の留意点	評価
みつめ(1)	○ 川上村の割り箸の袋と家にある割り箸の袋を比べ、川上村について興味をもつ。 ・箸袋にある「このお箸を使うことは、森を守ることに繋がります。」「源流の森とあなたは繋がっています。」という宣伝をしている川上村について考える。	・箸袋から得られる情報を読みとらせ、川上村の割り箸が他と明らかに違う点を考えさせる	中心課題に対する予想を書かせる。
[中心課題] 川上村とはどのような地域なのだろう？			
しらべる(5)	○ 調べる見通しを立てる 割り箸に書かれた宣伝の意味を調べよう 「このお箸を使うことは、森を守ることに繋がります。」「源流の森とあなたは繋がっています。」「吉野の人工林の間伐材をあなたの身の周りで利用してください。」「紀の川(吉野川)源流—“水源地の村づくり”を応援して下さい」「間伐とは過密になった人工林の間引きをする作業です。活力ある森林育成のため必要です。」「源流人会会員募集」	○ 目的をもって調べ学習を行う。 ・川上村についての地形図、気候グラフ、年表などからどのような地域であるか考える。 ・林業とはどのような仕事か副読本「森林とわたしたちの生活」から考える。	○ 箸袋の6つの宣伝のなかから、グループで2つ選ばせる。 ・地図で奈良市と川上村を赤で囲み、川上村の位置を確かめさせる。 ・地形や気候、年表から林業に適した
			調べ学習をして、中心課題に対する

	<p>○インターネットで割り箸袋の宣伝を検索して調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・間伐材の箸が森を守る意味を調べる。 ・川上村宣言から水源地の村づくりを学ぶ。 	<p>地域であることを確かめさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林業が、木を切るだけの仕事ではないことに気付くか。 ・川上村の林業の仕事を知る 	<p>考えを書かせる。</p> <p>ゲストとの出会いを通じて中心課題に対する考えを書く。</p>
<p>川上村の割りばし袋の宣伝のなぞをとこう</p>			
	<p>○グループで調べてきた割り箸の宣伝の意味を発表し合いクラスで1つの答えとしてねりあげて、尾上氏に評価してもらい、川上村の特色を見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川上村の林業家が間伐できていない実態を知る ・川上村の森を守ることで、吉野川(紀の川)流域にあたえる影響を学ぶ 	<p>2点の特色に気付かせる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川上村は「水源地の森」を守る決意をし、源流で暮らすものとして、下流(他地域)にはいつもきれいな水を流しつづけることを決めた村であること。 ・川上村は吉野川(紀の川)に美しい水を流すだけでなく、源流、上流、中流、下流に暮らす人に「川上村の思い」をつなげていること。 	
<p>ふかめる (7)</p>	<p>川上村の魅力について考えよう</p>		<p>話し合いを通じて中心課題に対する答えを書く。</p>
<p>ひろげる (8)</p>	<p>○ 学習したことから、川上村の割り箸についての関わり方を考える。</p> <p>○ 考えたことを新聞にまとめる。</p>	<p>子どもたちの発表用紙を使って整理していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川上村は「樹と水と人と共に生きる」という水源地の村づくりをしていることに気付かせる。 <p>様々な立場のなかから奈良県民として割り箸をどう使っていくか考えさせる。</p>	<p>中心課題に対する答えを書く。</p>